



社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

法人だより

福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

No. **38** 2025年1月20日
(令和7年)

静岡市清水区山原 871-2
Tel 054-363-2046
Fax 054-363-0522



あすなろ福祉会各施設職員の皆さん、関係者各位のみなさん
新年おめでとうございます

理事長 杉井則夫



コロナ禍はほぼ終息したとはいうものの、感染症リスクは相変わらずですし、気候変動による災害リスクの高まりや、社会保障制度の揺らぎなど心休まるときがありません。

理事会も、一体となって緊張感を持った運営を心掛けてまいりたいと考えております。

皆さん共々良い一年になるようがんばりましょう。



▷ 学びあう…

きょうされん 全国大会 in 滋賀 3000人が集結

—障害者事業所の全国組織—

—ともから仲間3名と職員4名が参加

11月8日、9日、ともの家が加入している「きょうされん」の全国大会に、仲間3名と職員4名で参加してきました。仲間の参加は4年ぶり。情報提供の工夫など、様々な配慮をした事前学習を得て出発しました。新幹線に乗って知らない土地へ到着。仲



草津 YMIT
アリーナに到着



ボランティアがハイタッチでお出迎え

間たちがどんなイメージを持って出発したのか、職員の方が不安でしたが、現地

での、温かいお出迎えと仲間の順応性が相まって、緊張しながらも、自分を表出している姿が見られました。

学びの日々…創意工夫、チーム支援が必須

職員は、社会情勢や他事業所の実践を学ぶことで、障害のある人の制度の在り方や、仲間とのより良い関係づくりの基礎となるもの「共感の世界」について、理解を深めることが出来ました。私たちの仕事は、机上で学ぶことは少なく、35年経った今でも、仲間たちとの日常は刺激的で学びの日々です。声掛けや行動の一つひとつに創意工夫が必要であり、何よりチーム支援が必須です。学びは、仲間支援の奥行きに繋がりと、結局のところ、私自身の生き方に通じると言う哲学的側面を持ってると、最近つくづく感じています。

故 石橋稔さん 絵画展のご案内

昨年9月30日に亡くなられた石橋稔さんが書き溜めていた「作品」を、絵画展と言う形でみなさまにお披露目します。

所 パン屋さん隣 新活動室
時 2月17日(月)
~2月23日(日)
10時~15時

あすなろの家は

新規公益事業・「^{くおん}久遠チョコレート事業」を始めます

明けましておめでとうございます。

昨年中は大変お世話になり心よりお礼申し上げます。

さてコロナが落ち着き、社会はコロナ前のような日常を取り戻し、さあ明るい未来へむけて、走りだそう！と行きたいところですが、社会には多くの問題が山積されています。その中でも最大の課題と言われている労働力人口の減少。高齢化社会の進行によって今後はあらゆる産業が人材不足に陥り、従業員の採用競争の激化が予想されています。



高齢者施設も人材不足

そして高齢者介護にも、この波はひしひしと押し寄せ、あすなろの家も強く感じているところです。

「そんな社会情勢だから仕方ない」「困った困った」とただ見ているだけなのか？。いや違う「どうやってこの社会情勢の中で仲間を増やしていこう」「自分たちはどうやって、どんな色を打ち出して事業を展開していこう」と、自分たちで切り拓いていかなければなりません。未来に繋がっていくために、私たちは何色を選ぶのか、何色で勝負するのか？、27年間必死で繋いできた「本物」たちと一緒に、自分たちで「未来色」を創りたい。

令和7年度は、新規公益事業「久遠チョコレート事業」に着手！

令和7年度のあすなろの家は、新規事業「久遠チョコレート事業」に着手します。いったいどんな「未来」を作れるのか、今から楽しみでなりません。もちろん失敗もたくさんあるとは思いますが、今後も、今まで通り、ひとつひとつ前進していきたいと思っています。

皆様には、更なるご指導、ご協力をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

「久遠チョコレート」って何？

2003年、代表を務める夏目浩次氏が、愛知県豊橋市において障がい者雇用促進と低賃金からの脱却を目的とするパン工房（花園パン工房ラ・バルカ）を開業、その後失敗しても何度でも作り直すことができるチョコレートに着眼し、2014年にチョコレート事業を立ち上げ、現在全国に40店舗・60拠点を展開しているチョコレートブランド。

久遠チョコレートの目指すのは、誰も置き去りにしない、凸凹カラフル（いろんな方が輝ける）な社会を創ること。

今の社会には、まだまだ多様な「個」への柔軟性が無い事で、働きたくても「働けていない」方たちがたくさんいる。ニッポンのチョコレートブランドとして、全国にランチを展開し、障がい者、悩みを抱える若者やLGBTQ、子育てや介護などで時間に制約を受ける方など、凸凹多様な方々と



一緒に、社会貢献としてではなく、一流のチョコレートブランドを目指すことにある。

(久遠チョコレート 夏目代表の言葉)

「ミッションは儲けることではない、センスある社会（こんな生き方をしたい、あんな生き方をしたいという選択ができる。人である以上属性があるかは関係ない）を創ること」

高齢者も、「仕事」が生きがいのポイント

あすなろの家は、この事業を高齢者で展開します。高齢者にとっての社会や家庭での役割や生きがいを持ってもらうには、「仕事」が大きなポイントとなると捉えてきました。デイサービスでは、「OSIGOTOデイ」としてサービスメニューを展開し、職員雇用においても高齢者を「ライフサポートメイト（家事援助）」として30名ほど雇用し、生き活きと働き、生きる機会を作り出してきました。高齢者といわれる方たちは本当に丁寧な仕事をしてくれます。

そしてあすなろが関わってきた地域には、たくさんの眠っている力がまだまだある。「そんな働き方ができるなら働きたい」と思っている人もたくさんいるはずなんです。

認知症、障がい、いろいろな特性があっても、少しの工夫や援助でちゃんと働くことはできる。仕事をするとうる気になる。役割を取り上げたくはない。など、実感として強く感じています。

「老人ホーム」をもっと気軽な場所に

そしてもっと「老人ホーム」を気軽な場所にしたいと思っています。「老人ホームは介護が必要になったら行くところ」「老人ホームは自分の家族が必要になったら行くところ」 またどうしても暗いイメージ、汚いイメージ、可哀そうなイメージを持ってしまう。

でも実際はまったく違います、毎日が明るく、楽しく、生き活きとして笑顔が溢れるところなので、もっと日常の中で気軽に寄ってもらえる場所にしたい。私たちは、いろんな選択をして自己実現できていく久遠チョコレートを通して、理念を具現化していきたいのです。

あすなろで「久遠チョコレート」事業化の効果、期待すること

• 地域を元気にしたい

人が集まれば活気が生まれる、働く場所ができる、家から外に出るに人が増える。そして地域にはひきこもり、若年性認知症、産後うつ、育児ストレス、介護ストレス・苦しんでいる人たちと、まだまだ動ける高齢の人たち、みんなが働ける場所を作り、なにより人を元気にしたい。

• 職員の働く意欲、モチベーションアップ、自慢の職場にしたい。

排泄介助、入浴介助、食事介助、どれも老人ホームでの大事な仕事に変わりはありませんが、お年寄りを、地域を、職員自身を元気にすることができる、こんなドキドキ・ワクワクする職場。そこで働くことが自慢できる職場にしたい。

• 誰もおいていかない、誰も見捨てない職場

あすなろには117名の職員がいます。中には、「子育て中の人」「お子さんが障がいを持っている人」「家族を介護している人」「いわゆる高齢の人」「シングルマザー」その他いろんな人がそれぞれの特性を持ったまま苦しくない仕事場を作れるのでは。

• 職員確保

介護業界の中で人材を探すことは、現在もこれからも困難を極めることになる。久遠チョコレート、一般的な感覚では老人介護とは繋がらない。介護事業だけでは遭うことがなかった方々との出遭えるチャンス、そして生活の中で介護とは無縁な人たちが老人介護に触れる機会なのです。

今年も、保育理念『一人ひとりの育ちを大切に』に基づいて

2025年度も保育理念である『一人ひとりの育ちを大切にしよう』の保育理念に基づき、『子ども・保護者・職員にとって』に立ち戻り、皆で保育を創っていきたいと思います。

0歳児から5歳児までの運動会復活!! -11/9(土)-



0歳児

運動会は特別な日ではなく、保育の一通過点です。開園当初から、保護者の皆様と共に子どもの成長を確かめ合う場として位置付けています。

5年ぶりに、0歳児から5歳児までの運動会を復活することができました。

保護者の皆様が、暖かい眼差しで子ども達一人ひとりの姿を観て、成長を感じ感動していただいたことを嬉しく思います。これからも子どもの姿から、保護者と職員と共に子どもの育ちを確かめ合うことを大事にしていきたいと思ひます。

保護者の感想より...



3歳児

▷0歳から5歳まで、みんなでやることに意味があるものでした。

▷0歳児、1歳児を見ていると、こういう時期もあったな、これできたかな、泣いていたかな、とか、2歳児になると大きくなったな、しっかりしてきたな、状況が分かるようになってきたんだねと思うと、感慨深かったです。

▷親だと、どうしても本人のできないこと、苦手なこと、やめてほしいこと、もっとこうだったらいいのにと、目が向きがちですが、こういうタイミングの中で、本人が頑張ってきたことを嬉しく思う。失敗じゃなくて積み重ねの上に頑張った姿が眩しく見えるという事を本人にも伝えていきたいと思ひました。ここまで寄り添ってくれた、クラスの友だちと、園の先生方に本当に感謝と感動でいっぱいです。



1歳児



4歳児



5歳児



2歳児

今年の社会保障制度はどうなる？

軍事力強化か、社会保障の充実で国民を大切にする社会か

今年が2025年問題の年。いわゆる団塊の世代800万人全員が、75歳以上の後期高齢者となる年です。国が計画しているような、給付対象者が増えても社会保障給付総額を増やさずに対処しようとするれば、当然給付内容が引き下げられることは自明です。

財政制度審議会は「年齢を問わず自己負担を原則3割とする」ことを要求。介護分野で「利用者負担を原則2割とし3割負担対象の拡大を要求しています。

経団連は、富裕層を含む上位層の所得税負担を増やすなどの政策の一方で、消費税増税、社会保障給付の削減や裁量労働制の一層の拡大や、軍拡の着実な推進などを掲げています。

昨年、訪問介護の給付を削減して、事業者の訪問介護事業撤退が相次ぎ、利用者に大きな影響を与えました。国はあの手この手で社会保障費の削減に力を入れています。

「国民の命と財産を守る」ことが軍事力を強化することなのか、社会保障を充実させて一人一人の国民を大切にする社会なのか、まさに分岐点に来ているのではないのでしょうか